

現代インドネシアにおけるイスラーム指導者養成の課題

西ジャワのプサントレンの事例から—

*服部美奈 **西野節男

はじめに—本稿の目的と研究対象

1. プサントレン概況
 2. 調査地および対象とするプサントレン—西ジャワ州
 3. ザイナル・ムストファ財団のプサントレン—スカマナーとスカヒドゥン
 - 3 1 ザイナル・ムストファの生涯とプサントレン設立の経緯
 - 3 2 プサントレン・スカマナー
 - 3 3 プサントレン・スカヒドゥン
 4. プルシス (Persis) のプサントレン
 - 4 1 タロゴンとランチャバンゴ
 - 4 2 プサントレン・タロゴン
 - 4 3 プサントレン・ランチャバンゴ
 5. プサントレン・イドリシヤー
 - 5 1 プサントレンの創設と命名
 - 5 2 イドリシヤーとサヌシヤー
 - 5 3 現キヤイ/ムルシド：シェイフ・ムハマッド・ファタフルラフマン
 - 5 4 教育・活動の内容
 6. プサントレン・マノンジャヤ
 - 6 1 創設者ウワ・アジェンガン
 - 6 2 カリキュラム
 - 6 3 プサントレンの生活と費用
- おわりに

はじめに—本稿の目的と研究対象

本稿は、イスラーム共同体の意思形成の思想的・精神的要となるイスラーム宗教指導者が現在のインドネシア教育を取り巻く状況のなかでいかに養成されているのか、またその課題は何かを西ジャワのポンドック・プサントレン（イスラーム寄宿塾・寄宿学校）—以下、プサントレンとする—の事例から考察することを目的とする。

インドネシアでは国立イスラーム宗教大学 (IAIN)

において伝統と革新を軸にリベラルな人材養成が行われ、プサントレン教育に携わる卒業生も少なくない。他方、伝統的なプサントレン教育を経たカリスマ的な人間性で民衆を惹きつけるイスラーム宗教指導者も生み出され続けてきた。多くの人々を惹きつけるのはイスラーム宗教指導者のいかなる資質によるのか。またそこで提供される教育の内容・質といかなる関係をもつのか。現代のプサントレン教育の特徴を明らかにするとともに、イスラーム宗教指導者の経歴・思想とそこで経験される学習との関わりについても考察する必要がある。

近年、日本におけるイスラーム研究はプロジェクトベース（たとえば人間文化研究機構プログラム「イス

* 名古屋大学大学院教員

** 名古屋大学大学院教員

ラーム地域研究（第1期：2006-2010、第2期：2011-2015）」などで着実に進められ、多方面から優れた研究が蓄積されつつある。しかし管見の限り、教育学分野におけるイスラーム宗教指導者養成に関する先行研究は非常に少ない。インドネシア・マレーシアなど東南アジア地域のイスラーム教育に関する西野 [1997, 2001, 2010]、西野・服部 [2007]、杉本 [2002, 2005]らの研究の他、阿久津 [2003]による中東地域のイスラーム教育に関する研究があるのみである。本研究がテーマとするイスラーム宗教指導者の現代的養成、あるいはイスラーム宗教指導者の現代的諸問題への対応を探るといった観点からの研究はいまだ少ないのが現状である。

インドネシアは一国としては世界最大のムスリム人口を擁する地域であり、中東地域とは異なるイスラーム宗教指導者養成の現代的特徴を有する。マイノリティ・ムスリムの存在が社会問題化している西欧諸国では特に9.11事件以降、教育に焦点を当てたイスラーム研究が一時的に増加している [Hefner and Muhammad 2007; Lukens-Bull 2005など] もの、それらは主としてホスト国へのムスリムの社会統合という観点あるいはホスト国の安全をおびやかさない「穏健な」イスラーム宗教指導者養成の構築という観点からの研究がほとんどである。つまり、従来の研究にはイスラーム宗教指導者の人間性や思想に関する考察が欠けている。

本稿ではこれらのプサントレンの歴史的経緯や現状を明らかにすることを通して、現代インドネシアにおけるイスラーム指導者養成のあり方とその課題を考察する。なお、本研究は、科学研究費補助金 (C)「イスラーム宗教指導者の現代的養成と宗教間融和に関する国際比較研究」(研究代表者 服部美奈, 2012-2014年度)による研究成果の一部である。

1. プサントレン概況

本研究が対象とするプサントレンの機関数を州別に示したものが以下、表1である。2010/2011年度のプサントレン数は全国で27,218機関となっている。このなかで7,592機関と最も多くのプサントレンを擁するのが、本研究が対象とする西ジャワ州である。東ジャワ州の6,003機関、中部ジャワ州の4,484機関、バンテン州の3,384機関がそれに続く。次にプサントレンの類型として、サラフィヤー型、ハラフィヤー型、コンビネーション型の三つに分けられている。曖昧さを含み持つ分類であるが、サラフィヤー型が伝統的な宗教学習に限定されるのに対して、ハラフィヤー型は近代

学校制度を取り入れ世俗教科も教え、政府カリキュラムにそった教育を提供する。この両極のあいだに、さまざまなバリエーションをもつコンビネーション型が存在する。全国の機関数で見ると、サラフィヤー型が13,446機関で全体の49.4%、ハラフィヤー型が3,064機関で全体の11.3%、コンビネーション型が10,708機関で全体の39.3%となっている。西ジャワ州のプサントレンに限ると、サラフィヤー型が4,798機関で全体の63.2%、ハラフィヤー型が1,046機関で全体の13.8%、コンビネーション型が1,748機関で全体の23.0%となっており、サラフィヤー型の割合が全国平均に比して高く、コンビネーション型の割合が全国に比して低くなっている。

2. 調査地および対象とするプサントレン—西ジャワ州

本稿では、2012年10月に西ジャワ州バンドゥン市東方の町ガルトとタシクマラヤ周辺で調査を行った6カ所のプサントレンの事例をもとに考察する。西ジャワ州のなかのバンドゥンとガルト、タシクマラヤの位置関係は以下、図1に示した通りである。

ガルトではいづれもブルシス Persis (Persatuan Islam)傘下のタロゴンとランチャバンゴの二つのプサントレンを調査対象とした。ブルシスは、西ジャワで影響力をもつイスラーム改革派組織として知られる。中部ジャワに生まれた改革派組織ムハマディヤが教育・社会活動に重点をおいたのに対して、ブルシスは宗教活動に重きを置く。この二つのプサントレンは、それぞれのキヤイ (プサントレン主宰者) の名がその活動を通して広く知られている。タロゴンのキヤイがリベラルな改革を進め、国際機関や民間組織とも密接な連携のもとに現代社会の諸問題に答えようとするのに対して、ランチャバンゴのキヤイは、啓蒙書の執筆に精出し、演説をはじめとしてダツワ (伝道) 活動も積極的に行い、そのプサントレンでは護教的な役割を意識した教育を提供する。

タシクマラヤでは市中心部から近いスカマナーとスカヒドゥンを対象としたが、スカマナーは日本軍政期に反乱を起こしたザイナル・ムストファが設立したプサントレンとして知られる。スカヒドゥンはスカマナーに先んじて、ザイナル・ムストファの従兄弟ザイナル・ムフシンが設立したプサントレンで、この二つのプサントレンは近接しており、現在は同じザイナル・ムストファ財団の下にある。両者は相携えて発展をはかりつつ、それぞれの個性・特徴も維持してきている。

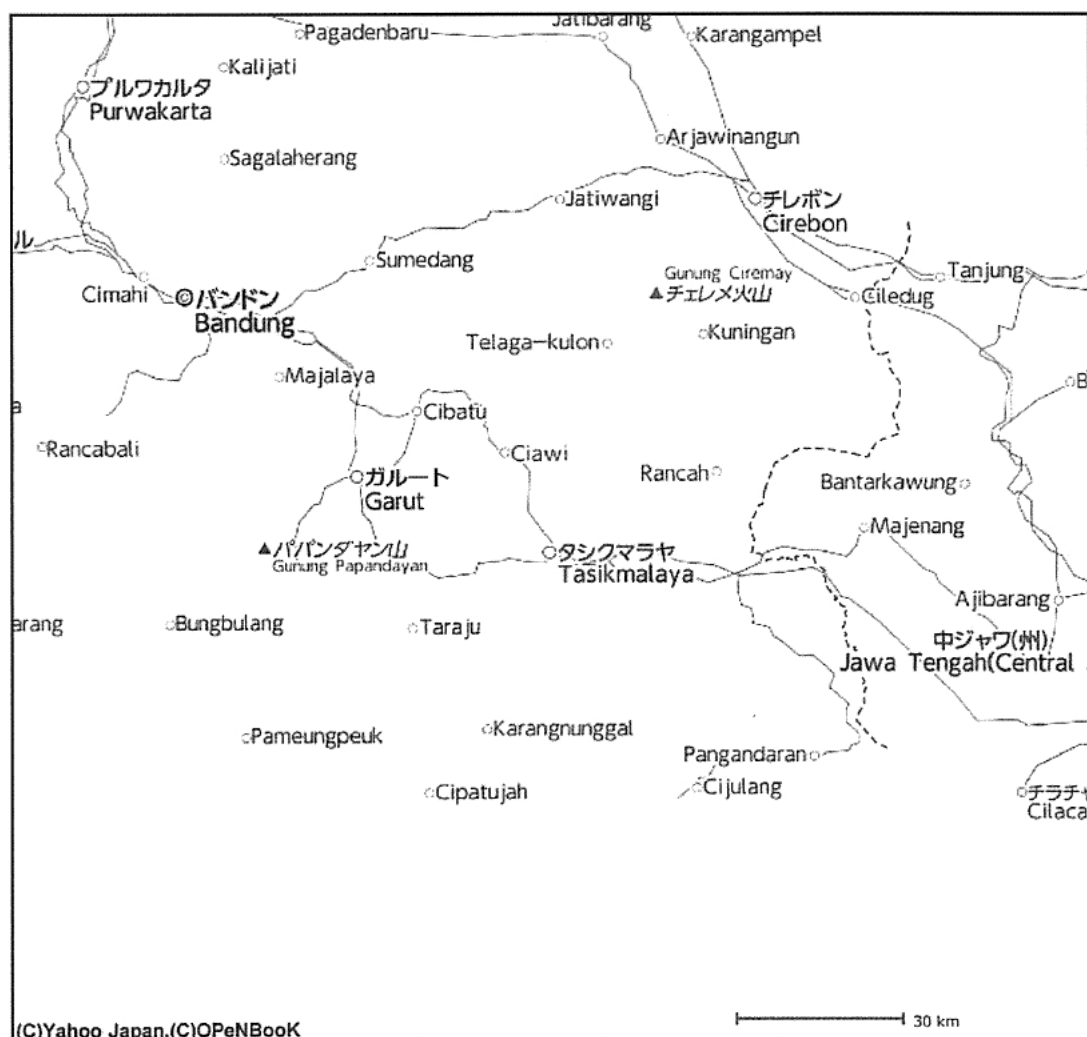
表1. インドネシアのプサントレン数（2010/2011年度）

	州名	機関数	類型		
			サラフィヤー	ハラフィヤー	コンビネーション
01	アチエ	1,328	1,194	25	109
02	北スマトラ	236	39	133	64
03	西スマトラ	150	34	116	-
04	リアウ	183	24	159	-
05	ジャンビ	306	62	122	122
06	南スマトラ	351	101	-	250
07	ブンクル	70	29	26	15
08	ランブン	695	292	118	285
09	バンカ・ブリトゥン諸島	38	15	3	20
10	リアウ諸島	42	8	37	-
11	ジャカルタ	93	24	10	59
12	西ジャワ	7,592	4,798	1,046	1,748
13	中部ジャワ	4,484	400	-	4,084
14	ジョグジャカルタ	169	17	-	152
15	東ジャワ	6,003	3,127	268	2,608
16	バンテン	3,384	2,744	332	308
17	バリ	109	65	4	40
18	西ヌサ・トゥンガラ	521	31	309	181
19	東ヌサ・トゥンガラ	26	-	-	26
20	西カリマンタン	227	68	8	151
21	中カリマンタン	74	42	15	17
22	南カリマンタン	302	172	103	27
23	東カリマンタン	119	37	22	60
24	北スラウエシ	17	2	15	-
25	中スラウエシ	119	38	20	61
26	南スラウエシ	276	32	88	156
27	南東スラウエシ	106	24	2	80
28	ゴロンタロ	23	3	7	13
29	西スラウエシ	87	16	66	5
30	マルク	18	9	2	7
31	北マルク	17	-	1	16
32	バプア	30	-	-	30
33	西バプア	23	2	7	14
	合計	27,218	13,446	3,064	10,708
	割合	100.0	49.4	11.3	39.3

Kementerian Agama, *Statistik Pendidikan Islam 2010/2011*, 2012, 151頁

タシクマラヤではこの2カ所の他に、町の周縁部に位置するファトヒーヤ・イドリシヤーと、町からかなり離れたミフタフル・フダ（マノンジャヤ）も訪問した。ファトヒーヤ・イドリシヤーは、神秘主義教団サ

ヌシヤー派のプサントレンとして知られる。また、ニカーブ着用が強制されているわけではないが、着用する女性信徒も少なくない。少数派の神秘主義とニカーブから猜疑の目が向けられがちである。他方、マノン



(出典：http://maps.loco.yahoo.co.jp/。2013年7月5日アクセス。)

図1 インドネシア・西ジャワ州東部の地図

ジャヤは、キタブ学習に専念するシステムを整えていることで知られる。上級生から選ばれたプングルス(監督生)による自主管理、学校化の影響を最小限に止め、学習(プンガジアン)は礼拝の後に置くスタイル、男女の厳格な隔離(生協購買部の時間設定)などの特色をもつ。卒業生の多くがプサントレンを設立するという指導者層の伝統的な再生産を担う。

以下に、これら6カ所のプサントレンの歴史的経緯と現状を整理し、そこに見られる指導者像について考察する。基本的には訪問を通して得られた資料・情報を中心に整理するが、ウェブ情報があればそれで補足しながら記述することにしたい。本稿では、まず最初にタシクマラヤのスカマナーとスカヒドゥン(いずれ

も伝統派のナフダトゥール・ウラマ系)を見て、続いてガルートのタロゴンとランチャバンゴ(この2カ所は改革派のプルシスのもとに置かれる)、最後にイドリシヤーとマノンジャヤ(それぞれ神秘主義とキタブ学習に専念)の順に考察する。ちなみに、各プサントレの訪問日はタロゴン2012年10月17日、スカマナー、スカヒドゥン、マノンジャヤ2012年10月18日、イドリシヤー2012年10月19日、ランチャバンゴ2012年10月20日である。限られた地域の限られた情報によるものであるが、イスラーム指導者とその目指す教育のあり方を考える素材を整えるのが一つの目的である。

3. ザイナル・ムストファ財団のプサントレン・スカマナーとスカヒドゥン

3-1 ザイナル・ムストファの生涯とプサントレン設立の経緯

ここではまず、キヤイ・ハジ・ザイナル・ムストファ・ラヒマフラー（K.H. Zainal Mustafa Rahimahulloh; 1899年生-1944年3月28日逝去、以下、ザイナル・ムストファ）の生涯と、二つのプサントレンの設立経緯を概観することにより、イスラーム指導者の知の遍歴と系譜をたどりたい。

ザイナル・ムストファは1899年、西ジャワ州タシクマラヤ県シンガバルナ郡チメラ村バゲウル（Bageur, Desa Cimerah, Kecamatan Singaparna, Kabupaten Tasikmalaya）の比較的裕福な農家に生まれた。この地域は現在のタシクマラヤ県スカラメ郡スカラピ村（Desa Sukarapih, Kecamatan Sukarame）である。幼少期の名前はフダエニ（Hudaeni）であったが、1927年にメッカ巡礼から戻った後、ザイナル・ムストファと改名している。

フダエニはオランダ植民地政府によって設立された国民学校（Sekolah Rakyat）で教育を受けると同時に、宗教に関しては村の宗教導師のもとでンガジ（ngaji, イスラームの基礎的学習）を学んだ。その後、フダエニは17年以上にわたってプサントレンを遍歴し、イスラーム諸学を深めた。このような学習の形態、つまりプサントレンを遍歴してイスラーム諸学を深める学習の形態は、当時の蘭領東インドでは一般的なものであった。具体的には、郷里のタシクマラヤ周辺ではプサントレン・グヌン・パリ（Pesantren Gunung Pari）で7年間、プサントレン・チレンガ（Pesantren Cilenga）で4年間、プサントレン・ジャマイス（Pesantren Jamais）で1年間、計12年間学んだ。さらにタシクマラヤだけでなく、西ジャワ州ガルート県のプサントレン・スカラジャ（Pesantren Sukaraja）で3年間、バンドンのプサントレン・スカミスキン（Pesantren Sukamiskin）で3年間、学んだ経験をもつ⁽¹⁾。プサントレン・グヌン・パリは、フダエニの従兄弟でありプサントレン・スカヒドゥンの主宰者ザイナル・ムフシン（K.H. Zainal Muhsin）の兄ディムヤティ（Dimiyati）が主宰するプサントレンであった。つまり、親族関係のあるプサントレンであった。

その後、メッカ巡礼に旅立ち、1927年に郷里へ戻った後、スカナナー（Sukamanah）という名でチクンバン集落（Kampung Cikembang）にプサントレンを設立した。これがプサントレン・スカマナーの始まりであ

る。実はそれに先立つ1922年、従兄弟のザイナル・ムフシンによってプサントレン・スカヒドゥンが設立されている。どちらの土地も、郷里の名家出身の一人の信心深い寡婦によって寄付されたものであった。またザイナル・ムストファは、従兄弟によって設立されたプサントレン・スカヒドゥンを通してイスラーム諸学の知識をさらに広げたとされる。特に、インドネシアで主流のシャフィイー派の思想を深めた。ザイナル・ムストファはプサントレンを主宰する他、タシクマラヤ県内の村々で、活発に説教等の宗教活動を行ない、次第にカリスマ性をもった指導者になっていったとされる。彼は東ジャワで生まれた伝統派イスラーム組織であるナフダトゥール・ウラマー（Nahdhatul Ulama）に1933年に加わり、タシクマラヤ支部の副委員長に任命された。

ザイナル・ムストファは自らの宗教と民族に誇りを持ち、植民地勢力に徹底して抵抗し続けた人物であった。彼は1940年以降、民族意識を覚醒させ、植民地勢力に抵抗する活動を公然と行なった。そのため、1941年11月17日、プサントレン・チパスン（Pesantren Cipasung）を主宰するキヤイ・ハジ・ルヒアット（K.H. Ruhiat, 以下、ルヒアット）を含む数人と共にオランダ植民地政府に抵抗するよう民衆を扇動したという理由により逮捕され、タシクマラヤ刑務所、そしてバンドンのスカミスキン刑務所に1942年1月10日まで拘留された。その後、同じ理由により1942年2月末に再びルヒアットと共に逮捕され、チアミス刑務所に拘留された。

1942年3月8日、オランダ植民地政府に代わり日本軍が同地を占領した際、ザイナル・ムストファは刑務所に拘留されていたが、日本軍に協力させる意図のもと釈放された。しかし彼は、日本軍に対しても徹底して抵抗し続けた。その一つとして、天皇へのサイケイレイ（最敬礼）はイスラームの教えに対立するものであり、キブラ（礼拝の方角）に変化を生じさせ、唯一神への信仰（イスラーム神学）を侵害するものとして抵抗した。彼は日本軍がサイケイレイを強要しても応じなかったとされる。

彼は1944年2月25日に日本軍への蜂起を計画し、サントリ（プサントレンの生徒）たちにも竹槍を持ち、護身術であるブンチャック・シラット（pencak silat）を訓練するよう呼びかけた。また、食事や睡眠を削り、アッラーに近づくための経文（wirid）を読んだりといったタレカット（神秘主義の実践）に通じる精神的な訓練も与えた。これはシンガバルナ蜂起として知られる。しかしこの蜂起は日本軍によって鎮圧され、ザ

イナル・ムストファは裁判という名目でジャカルタに拘留された。そしてプサントレンは日本軍によって閉鎖させられ、一切の活動を禁止された。その後、ザイナル・ムストファは1944年10月25日に処刑され、ジャカルタ・アンチョール（現ジャカルタ英雄公園）にサントリと共に埋葬されていたことが1973年になって判明した。1973年8月25日、タシクマラヤ県スカマナーのタシクマラヤ英雄墓地にすべての墓を移動させ、埋葬しなおされた。それに先がけて1972年11月6日、ザイナル・ムストファは国家英雄として認められていた。

以上、みてきたように、プサントレン・スカマナーはザイナル・ムストファによって1927年に設立され、プサントレン・スカヒドゥンはザイナル・ムフシンによって1922年に設立されている。ザイナル・ムストファとザイナル・ムフシンは従兄弟の関係であり、この二つのプサントレンの主宰者は親族関係にあることがわかる。しかし、プサントレン・スカマナーは主宰者であるザイナル・ムストファの死と日本軍占領により、活動の中断を余儀なくされた歴史をもつ。この二つのプサントレンはその後、後継の主宰者に受け継がれ、それぞれの発展を遂げている。以下、二つのプサントレンのその後の発展をみてみたい。

3-2 プサントレン・スカマナー

ザイナル・ムストファの存命中、つまり1927年から1944年当時、プサントレンに寄宿するサントリは約600人、寄宿せずに学習するサントリは600人以上いたとされる⁽²⁾。日本軍によって閉鎖された後、インドネシア独立後もしばらく、プサントレン・スカマナーはカリスマ的な指導者を失い復活できなかった。そこでプサントレン・スカヒドゥンの初代主宰者の息子であり、1945年からプサントレン・スカヒドゥン第三代主宰者となっていたキヤイ・ハジ・A. ワハブ・ムフシン(K.H.A. Wahab Muhsin, 以下、ワハブ・ムフシン)は、プサントレン・スカマナーを復活させようと、彼の実弟であるキヤイ・ハジ・ムハマド・フアド・ムフシン(K.H. Muh. Fuad Muhsin, 以下、ムハマド・フアド・ムフシン)を、ザイナル・ムストファの娘であるシティ・ソフィヤ(Siti Sofiyah)と結婚させた。そして1950年、ムハマド・フアド・ムフシンとザイナル・ムストファの実弟であるキヤイ・U. アブドゥル・アジズ・ラヒマフッラー(K.U. Abdul Aziz Rohimahulloh)は数名の著名人と共に、周辺住民やスカマナー集落の若者を対象とした月ごとの宗教学習を通してプサントレン・スカマナーの再興を図った。

1956年以降、プサントレン・スカマナーは、従来の

プサントレン学習に加えて、政府によって認定される各教育段階の修了証書を提供する学校教育の導入を積極的に行なった。1956年にイスラーム小学校であるマドラサ・イブティダイヤー・スカヒドゥン(Madrasah Ibtidaiyah Sukahideng, 財団設立後にマドラサ・イブティダイヤー・キヤイ・ハジ・ザイナル・ムストファ・スカヒドゥンと改称)、続いてアル・イスラーム一般中学校(SMP Al Islah, 財団設立後にキヤイ・ハジ・ザイナル・ムストファ・スカマナー一般中学校と改称)をスカヒドゥンに設立した。さらに、1959年8月17日にはザイナル・ムストファ財団(Yayasan KH. Zainal Musthafa)を設立することにより組織としての基盤を固め、前述の2つの学校を改称した。

続いて、キヤイ・ハジ・ザイナル・ムストファ・スカマナー一般高校と、四年制宗教師範学校(その後、6年制)を設立した。のちにこの宗教師範学校は国立に移管され、スカマナー国立宗教師範学校となり、その後、国立イスラーム中学校であるスカマナー国立マドラサ・サナウイヤーと国立イスラーム高校であるスカマナー国立マドラサ・アリヤーになった。前述の一般中学校と一般高校は現在に至るまで私立の学校として存続し、前述のマドラサ・イブティダイヤーは私立のまま、宗教学習のみ行うマドラサ・ディニヤーおよびクルアーン学習教室として発展した。このように第二代主宰者であるムハマド・フアド・ムフシンは1998年に長男のキヤイ・ハジ・A. トヒル・フアド(K.H.A. Thohir Fuad)を後継者として迎えるまで、特に組織の強化と学校教育の導入という点でプサントレン・スカマナーの発展に寄与した。しかし一方で、プサントレンの伝統的なキタブ学習も、学校教育以外の時間帯つまり寮内の学習として維持している点で、初代主宰者であるザイナル・ムストファ時代からのイスラーム学習の伝統を引き継いでいるといえる。

1998年以降、プサントレンを引き継いだトヒル・フアドの功績はプサントレン内の建物の拡充に焦点が置かれたが、第二代と比べてプサントレン教育の改革にはさほど熱心には取り組まなかったようである。つまり、現在のプサントレン・スカマナーの発展は第二代主宰者の時代(1950-1998)に依るところが大きい。

3-3 プサントレン・スカヒドゥン

プサントレン・スカヒドゥンの初代主宰者であるザイナル・ムフシンは1938年に逝去し、キヤイ・ハジ・ヤフヤ・バフティアル・アフアンディ(K.H. Yahya Bahtiar Afandi, 以下、ヤフヤ・バフティアル)がその後1945年まで第二代主宰者となった。ヤフヤ・バフ

表2. プサントレン・スカヒドゥンのクラス編成と学習内容

段階	クラス名 (Marhalah)	学習内容
1.	Tamhidhiyyah I	① アラビア文字読み書き, ②クルアーンおよびハディース暗記
2.	Tamhidhiyyah II	①アラビア文字読み書きの改善, ②クルアーンおよびハディース暗記, ③統語 (ナフ) と活用変化 (タスリーフ) の暗記
3.	Ibtidaiyyah I	①タウヒード, フィクフ, アフラック, ②クルアーンおよびハディース暗記, ③タウヒード, フィクフ, アフラック, 歴史 (Tarikh)
4.	Ibtidaiyyah II	①ナフ学および活用変化 (タスリーフ) の暗記, ②クルアーンおよびハディース暗記, ③タウヒード, フィクフ, アフラック, 歴史
5.	Ibtidaiyyah III	①ナフ学およびサラーフ学, ②クルアーンおよびハディース暗記, ③タウヒード, フィクフ, アフラック, 歴史
6.	Mutawassithah (I, II, III)	①ナフ学およびサラーフ学, ②タフシール, ハディース, ③ナフ学, サラーフ学, バラーガ (Balaghah)
7.	Mutaqaddimah	①フィクフ, アキダー (Aqidah), アフラック / タサウフ, ②ムスタラフ・ハディース, ウスール・フィクフ, ③タフシール, タフシール学, ハディース, ムスタラフ・ハディース, ④フィクフ, ウスール・フィクフ, コイダ・フィキヤ (Qoidah Fiqhiyyah), ⑤アコイド (Aqoid), タサウフ, マンティク (Mantiq), バラーガ, アダブ (Adab)

(出典：2010年8月6日訪問時の入手資料より)

ティアルがどのような人物であったかについて詳しい資料は現在のところみあたらない。その後、1945年から2000年まで長期にわたり第三代主宰者となったのが前述のワハブ・ムフシン（1921年生－2000年逝去）である。彼によってプサントレン・スカマナー再興の契機が作られると同時に、二つのプサントレンはザイナル・ムストファ財団下で大きく発展した。ワハブ・ムフシン逝去後、キヤイ・ハジ・ムハンマド・シハブッディン・ムフシン (K.H. Muhammad Syihabuddin Muhsin, 1938年生－2007年逝去。以下、ムハンマド・シハブッディン) が2000年から2006年まで第4代主宰者をつとめた後、2007年以降、キヤイ・ハジ・T. ファド・ワハブ (Prof.Dr. K.H.T. Fuad Wahab, 以下、ファド・ワハブ) が第5代主宰者となり、現在に至っている。現在の主宰者は博士学位を持ち、大学教授を兼任する人物である。

調査時には、プサントレン・スカヒドゥンにはサントリ1,420人が在籍し、そのうちの950人が寄宿生である。男女比からみると男子がやや多い構成となっている。プサントレン・スカヒドゥンのサントリは前述の国立マドラサ・サナウイヤー・スカマナー（前期中等教育段階）やマドラサ・アリヤー・スカマナー（後期中等教育段階）に通いつつ、その他の寮での時間帯を伝統的なキタブ学習（アラビア語で書かれたイスラーム学の文献学習）に費している。この学習は年齢によるクラス編成ではなく、サントリの修得状況に応じてクラス編成がおこなわれ7段階に分けられている。そして各段階で学習する内容と使用されるキタブが決め

られている。それを示したのが表2である。

この表からいくつかの傾向を読み取ることができ。第一に、初級段階ではアラビア文字の読み書き、および統語と活用変化などアラビア語文法の暗記が集中的に行われること、第二に、クルアーンおよびハディースの暗記は初級段階から中級段階まで継続して行われること、第三に、タウヒード、フィクフ、アフラックが中級から上級にいたるまで重要な学習分野に位置づけられていること、第四に、最終段階に入るとウスール・フィクフやタフシール学など、それぞれの分野の方法論についての学習が取り入れられていること、第五に、タサウフが最終段階になって入ること、などを挙げることができるだろう。

次の表3は、中級段階のムタワシサ段階および上級段階のムタカッディマー (Mutaqaddimah) 段階のサントリがどの時間帯にどのキタブを学習するかを示したものである。

プサントレン・スカヒドゥンでは、上記のキタブ学習を4つの時間帯に分けて行う。すなわち、①午前5時から6時までの早朝の時間帯（土曜日から木曜日までの6日間）、②午後3時45分から5時までの午後の時間帯（土曜日から木曜日までの6日間）、③日没後の時間帯（金曜日から月曜日、水曜日の5日間）、④夜半の時間帯（金曜日から月曜日、水曜日）である。この他、ムタカッディマー段階は、土曜日から木曜日までの朝8時半から10時と、水曜日の朝9時半から11時にもキタブ学習の時間帯が設けられている。また④夜半の時間帯のうち、日曜日と月曜日の夜は、初級段階の

表3. プサントレン・スカヒドゥンの中・上級段階の学習の時間帯とキタブ

時間帯	中級段階 (ムタワッシサ)	上級段階 (ムタカッディマー)
05:00-06:00	『ジャラーライン』(タフシール), 『リヤドゥ・サリヒン』	『ジャラーライン』(タフシール), 『リヤドゥ・サリヒン』
08:30-10:00		『ジャムアル・ジャワミ』(Jam'ual-Jawami'), 『アル・ヒカム』(Al Hikam), 『イヒヤ・ウルムッディン』(Ihya 'Ulum al-Din)
09:30-11:00		『アル・マンスル・ディニヤ』(Al-Mansyuroh al-Diniyah)
15:45-17:00	『ジャウハル・タウヒード』(タウヒード), 『パラガ・ムラン』, 『リサラ・ムアワナ』	『ジャウハル・タウヒード』(タウヒード), 『パラガ・ムラン』, 『リサラ・ムアワナ』, 『イバナトゥル・アフカム』(Ibanatul Ahkam), 『タイスイル』(Taisir), 『ウスール・フィクフ』, 『タンビ・ムグタッリン』(Tanbih al-Mughtarin)
日没後	『アルフィヤー』, 『パラガ』, 『タリムウルゴ・アロビヤー』(Ta'limullughoh al-Arobiyyah) * IB クラスのみ『アルフィヤー』『パラガ』に替えて『コワイドゥル・リゴ』(Qowaidul Lighoh)	『アルフィヤー』, 『パラガ』, 『タリムウルゴ・アロビヤー』
夜半	(共通)『ファトル・ムイン』, 『ウスール・フィクフ』(IA)『アルフィヤー』(略記), (IB)『タドゥリブ・キロア・クトゥブ』(Tadrib Qiroat al-Kutub), (IIA, IIIA, IIIB)『ハディース』, 『ウルムル・クルアーン』(Ulumul Qur'an), (IIB)『タドゥリブ・キロア・クトゥブ』	『ウクドゥル・ジュマン』(Uqud al-Juman), 『ハシア・バジュリ』(Hasyiah al-Bajuri)

(出典: 2010年8月6日訪問時の入手資料より)

場合、通常の学習の補習にあてることになっている。この表から、一日が上記の時間帯に分けられ、分野の異なる数種類のキタブが同時に学習されていることがわかる。

4. プルシス (Persis) のプサントレン

プルシス Persis とは Persatuan Islam の略で、1920年代初めにバンドンに作られたイスラーム改革派の組織である。スマトラ (パレンバン) 出身でバンドンに住む家族の家のクンドリ (共食儀礼) の後に行われた宗教に関する討論に起源をもつ。組織的な活動には重点をおかず、支部の設置も任意に行われ、それは中央の計画に基づくものでもなかった。プルシスの主たる関心は、一般集会を開いたり、伝道、説教を行ったり、パンフレット、定期刊行物、書籍の出版を通して、その考えを広めていくことにあった。その出版物は、教師や活動家がそれを参考に使うにつれて、一層、その影響力を拡大した。さらに、アフマッド・ハサン Ahmad Hassan とモハマッド・ナシール Mohammad Natsir と

いう重要な人物の支援と参加を得たことが発展につながった。プルシスは教育分野において、当初はプルシス・メンバーの子弟のためにマドラサを設立し、後に一般に門戸を開いた。成人宗教コースの他、1927年にはオランダ語学校に通う若者のために特別クラスを組織した。ナシールによってはじめられた教育プロジェクトは、1930年代初めからオランダ植民地政府の体系にそった学校の設置を進め、そこに宗教教育を位置づけた。加えて、1936年3月には宗教伝道者および宗教教師養成のためにバンドンにプサントレン・プルシス Pesantren Persis を開設した。これはアフマッド・ハサンの主導によるもので実験的な性格をもった。後にアフマッド・ハサンが東部ジャワのバンギル Bangil に移ったのにもない、このプサントレンもバンギルに移った。バンドンの40名の生徒の中で25名がアフマッド・ハサンとともにバンギルに移った。「ムハマディヤがその考えを穏やかに平和的に広めるのを好んだの対して、プルシスは公開討論・議論を楽しむかのようであったし、その姿勢は出版物にも示された」とデリ

ア・ヌール Deliar Noer は記している。⁽³⁾ 今回、西部ジャワのプサントレンを訪問するにあたって、プシスのプサントレンも対象に含めたいと考えていたところ、ガルート地区に興味深いプサントレンが2カ所（タロゴン、ランチャバンゴ）あり、いずれの指導者も大きな影響力を持っているとの情報を耳にし、訪ねることにした。

4-1 タロゴン Tarogong と ランチャバンゴ Rancabango

1960年にプシスとしては、ガルートで最初のプサントレン PP. Persatuan Islam At-Taqwa がタロゴンのランチャボゴ Rancabango に設置された。ウスタズ（教師）のザイヌッディン・マシディニアニ（Zainuddin Masjdiani）が指導し、それをシハブッディン（Sjhabuddin）とアミナ・ダフラン（Aminah Dahlan）が助けた。その後、1965年にブンタル（Bentar）に新たにマスジドが建設され、マドラサ・ディニヤー（イスラーム宗教学校）も設置された。学習活動はブンタルに移り、さらにブンタルには1967年に Tajhiziyah dan Tsanawiyah（中等部）が設けられ、それをシハブッディンとアミナ・ダフランが指導した。他方、ランチャボゴのプサントレン・アッタクワ Pesantren At-Taqwa は、シハブッディンがバンタルのプサントレンに移り、ザイヌッディンがバンドゥンに移ったので、活動が衰えて消滅した。その後、ブンタルの方は生徒が増えて手狭になってくる。1978年時点で、イブティダイヤー Ibtidaiyah（Diniyyah）（初等部）、タジュビジャとサナウイヤー Tajhiziyah dan Tsanawiyah（中等部）、合わせて677人のサントリ（初等部 414人、中等部 263人）が学んでいた。内76人が女子サントリで、ポンドック（寄宿舎）に滞在し、他方、36人の男子学生がシハブッディンとジャマルッディン（Djamaluddin）の家に住まった。手狭になったブンタルの代替地を求めて、1978年にランチャボゴのアッタクワ近くに用地が確保された。DDII（インドネシア・イスラーム伝道協会）のナシール（Natsir）の取りなしでサウジアラビアから援助がえられ、1980年には新しい用地にプサントレンの施設群が整えられた。これを機会に、ブンタルのプサントレンは Pesantren Persatuan Islam Garut I（ガルート第一プシス・プサントレン）となり、ジャマルッディンとアチェン・ザカリヤ（Aceng Zakaria）が指導し、他方、新しいランチャボゴの方は Pesantren Persatuan Islam Garut II（ガルート第二プシス・プサントレン）となり、シハブッディンとアミナ・ダフランが指導にあたった。1983年に Pesantren

Persatuan Islam At-Taqwa の用地は道路建設で政府に接収され、代わりに3クラスの新しい建てものが建てられた。1984年にガルートのプシスが4支部に分かれ、Pesantren Persatuan Islam Garut II はタロゴン支部の下におかれ、Pesantren Persatuan Islam Tarogong（タロゴン・プシス・プサントレン）になった。さらに1988年に、ブンタルのプサントレンの指導者であったジャマルッディンによって新たにプサントレンが設けられ、1990年に Pesantren Persatuan Islam Rancabango（ランチャバンゴ・プシス・プサントレン）として正式開校した。これはガルートのプシス指導者会議主導による開設であった。この会議にはアチェン・ザカリヤ、エンタン・ムフタル、アヤット・ヒダヤットらが含まれた。そして、ブンタルより50名の生徒が自主的にランチャバンゴに移った。ランチャバンゴのプサントレンは1994年にジャマルッディンを代表とする財団から、ラティフ・ムフタルを長とするプシス中央指導部のワカフ（宗教寄進財産）へと移管された。それ以降、プシスの中央指導部教育局によって、このプサントレンの育成が図られてきた。プシスのプサントレンには番号がつけられており、タロゴンが76、ランチャバンゴが99である⁽⁴⁾。

4-2 プサントレン・タロゴン

Pesantren Persatuan Islam Tarogong 76

タロゴンのプサントレン設立とその後の経緯は前述の通りである。創設者（現キヤイの義父）はジョグジャカルタのPGA（宗教教員養成学校）を卒業した。ちなみにプシスのプサントレンとしては、前記の通り1936年にバンドンに設立されたものが最初である。その後、バンギルのプサントレンがプシスのプサントレンを代表するものとして発展してきた。

タロゴンのプサントレンでは、現在の指導者の義母がバンドンのプサントレンの最初の卒業生である。このタロゴンのプサントレンは設立間もない頃は、そこで学んだのは僅かに100名程度の生徒で、ディニヤー（イスラーム宗教学校）とサナウイヤー（イスラーム中学校－前期中等段階）だけであった。前記の通り、1978年に現在地に移転してきて、1980年に正式にプサントレンとしてスタートした。移転当初は都市の周縁部で、周囲は家もまばらであったが、1978年にガルートの地方政府が移ってきて、まわりに家がたち始める。その後、ディニヤーとサナウイヤーに加えて、アリヤー（イスラーム高校－後期中等部）を設立し、さらに1992年にはTK（幼稚園）、SD（小学校）を設置した。現在の生徒数は約3000名で、プシスのプサン

トレンとしては最も生徒数が多いという。生徒の出身地はガルト周辺が多いが、他にジャカルタなどからも来ている。

現在の指導者はイクバル Iqbal で、彼はインドネシア大学の数学科を卒業している。1986年にタロゴンに来て結婚した。妻の父がプサントレンの創設者である。イクバルは大学で数学を専攻し、イスラームを専門的に学んだわけではないが、学生時代にHMI(イスラーム学生協会)の中央指導部に所属した。その組織では多くの仲間がプサントレン学習の経験を持ち、また中には(イスラーム教徒であるのに)カトリックの高校で学んだものもあり、こうした付き合いを通してプサントレンを知ることができ、それを広い文脈で捉えられるようになった。また、LP3ES⁽⁵⁾の活動などを通して、ダワム・ラハルジョ(Dawam Raharjo)他のイスラーム有識者やプサントレンの指導者らともつながりをもった。宗教・哲学研究所LSADF(lembaga studi agama dan filosofat)での活動経験ももつ。

イクバルは1983年までジャカルタ国際学校JIS(Jakarta International School)やガンジースクールで数学を教えた経験がある。タロゴンに来て結婚して8年後の1994年に、ここのタロゴンのプサントレン指導者に選挙で選ばれた。2000年に母親が亡くなった。タロゴンのプサントレンでは、指導者の下に3人のディレクターが置かれ、それぞれが(1)施設・設備、(2)庶務(人事)、(3)社会活動を担当する。指導者は6年任期で選ばれ、2012年現在、イクバルは3期目である。イクバルの話によると、このプサントレン教育の重点はTK(幼稚園)、SD(小学校)、サナウィヤー(イスラーム中学校)にある。イスラームの基本が大切で、その年齢集団の方が教育しやすい。生徒数はTK440名、SD1960名(24クラス)である。小学校については、「統合イスラーム小学校」"Sekolah Dasar Islam Terpadu"の看板がかかげられ、Aの基準認定も得ている。学費は小学校SDで年200万ルピアである。幼稚園は8時から12時までで、クルアーンの長いスーラ(章)を暗記させる点に特色がある。周辺には改革派のムハマディヤや伝統派のナフダトゥール・ウラマなど多いが、クルアーン学習ならニュートラルなので生徒が集まりやすい。その他に保育所も運営しており、30-40名の乳幼児を預かっている。プルシスの三つの柱として、教育、ダツワ(伝道)、社会貢献がかかげられ、ここでも三つの柱にそって、さまざまな活動が展開されている。指導者の兄弟の一人が医者で、プサントレン内に設けられたポリクリニックを担当する。また、2006年には著名大学への奨学金(3年間)の制度を整

えた。2012年までに30人の卒業生が奨学金を得て、ボゴール農科大学、ジャカルタ国立イスラーム大学、インドネシア教育大学などに進学した。我々の訪問時には掲示板に当該年度の奨学金受給者名が張り出されていて、ボゴール農大の獣医学、ガジャマダ大学の中国語、インドネシア教育大学の物理教育、ボゴール農大の応用気象学、ボゴール農大のコミュニケーション・社会開発、ジョグジャカルタ国立イスラーム大学のタフシール・ハディース学といったようにさまざまな大学・分野で学ぶ予定が示されていた。

教師の大半(80%)はプルシスのプサントレンを卒業している。幼稚園の教師はジャカルタで教員養成を受けて、その後、こちらに戻って2年間のマガン(見習い)を経て、正規の教員になるというシステムである。教師の給料は学歴と経験年数によって異なっている。教師は政府雇用、財団雇用、非常勤の3種にわかれる。財団常勤の場合は1時間50,000ルピア、非常勤は1時間15,000ルピアである。

プサントレンの教授内容については、プルシス内で自由に編成することができ、タロゴンでは六つの基本教科、すなわちクルアーン、ハディース(預言者ムハンマドの言行に関する伝承)、アキダ(信仰)、アフラック(倫理)、アラビア語、シャリアー(イスラーム法)である。ハディースについては『ブルグルマロム』や、タフシール(クルアーン注釈)については『ジャラライン』など一般的なキタブを使っている。また、教師に独自のテキストを作るように勧められている。アラビア語にしても、伝統的な学習方法だと、ナフ・サラーフ(統語、語形)など細分化されていて、別の時間に別の教師が教えるなど効果的・効率的ではない。そのため、ここではアラビア語を一つの教科にしている。言語は四つの能力に分けられるが、リーディング(読解)に重点を置く。

アスラマ(寄宿舎)には500人が寄宿している。プサントレン学習は週に4回、スブ(夜明け前)の礼拝のあとにクルアーンとハディースを学ぶ。夕方にはアラビア語の学習、そしてイシャ(夜)の礼拝のあとはグループ学習(belajar kelompok)、グループ討議などが行われる。指導を担当するのは大学生で、多くはこの卒業生で、彼らは独身で寮にすむ。このプサントレンは、3年前にはUNICEFのChild friendly education(pendi rama anak)に選ばれた。同じChild friendly educationとしては、ガルトで3カ所、すなわちNU(ナフダトゥール・ウラマ)、ムハマディヤ、プルシス各1カ所が選ばれた。また、Living Value Activities for Young Adults(青年のための生活価値活動)とい

うテキストが用意され、安寧、尊重、愛、寛容、誠実、謙譲、協働、幸福、責任、簡素、自由、団結といった価値を学ぶ。また、プサントレンとして五つの価値、すなわち愛 cinta、勤勉 mujahad (kerja keras)、信念 amanah (percaya)、相互扶助 tolong menolong、寛容 torelansi を強調している。

4-3 プサントレン・ランチャバンゴ

PP Persatuan Islam Rancabango 99

現在の指導者はアチェン・ザカリア KH. Aceng Zakaria である。彼は1948年10月11日にガルートに生まれた。裕福な家庭ではなかったが、父親がウラマで、宗教的な環境のもとで育った。フォーマルな教育は、ガルートのババカン・ロア国民学校 (Sekolah Rakyat Babakan Loa) を卒業しただけである。兄は両親に彼を中学校に進学させるように進言したが、聞き入れられなかった。小学校で学ぶかわり、自分で『サフィナー』、『ティジャン・ジュルミヤー』、『イムリテイ』などのキタブを学び、小学校を卒業するころにはそれらのキタブの学習も修了していた。その後も、彼は両親の仕事を手助けながら、キタブの学習を続けた。その他に、彼はワナラジャのイスラム生徒会 PII (Pelajar Islam Indonesia) Wanaraja にも積極にかかわり、人前で何度か説教をする機会が与えられた。母音符号なしのアラビア語も読めるようになり、キタブ・クニンを周囲のサントリに教えるように命じられた。彼は1969年にバンドンに出て、パジャガラン (Pajajaran) のブルシスの学校で学び始めた。彼はキタブを読むことに秀でていたので、ムアリミン (高校部) の1年生に直接受け入れられた。1970年にムアリミンを卒業したあと、キヤイ・アブドゥラフマンの家で毎週水曜日の夜に、アブドゥラフマンから直接学んだ。特に重点がおかれたのは『タフシール・イブヌ・カシール』である。アチェン・ザカリアの資質をみて、アブドゥラフマンはパジャガランのブルシス・プサントレン Pesantren Persatuan Islam のウスタズ (教師) としての仕事の話をもちかけ、それにアチェン・ザカリアはこたえた。学識が深まるにつれて討論に招かれる機会が増え、1973年頃にはガルートのウラマたちとフィクフ (イスラーム法学) の問題の議論に招かれるようになった。それはムハマディヤのアジェンガン⁽⁶⁾・カルヒ Karhi、アジェンガン・アデ Ade、アジェンガン・スレイマン Sulaiman やその他のウラマたちとの議論であり、たとえばイマムの後ろでアル・ファティハ (クルアーンの開扉章) を読むこと⁽⁷⁾、クヌート⁽⁸⁾の問題、その他のフィクフ法学の問題を議論するものであった。こ

うした機会を通して、彼の名は広く知られるようになり、彼の考えもガルートのウラマたちに取り上げられるようになった。

1975年にアチェン・ザカリアはアミナ・ダハランの求めに応じて、ガルートに戻ることを決めた。アミナ・ダハランはガルートにブルシスの最初のプサントレンを創設した人達の一人である。アチェン・ザカリアはミンバル (説教壇) での説教に加えて、ガルートのラジオ局での説教もおこなった。教育にも献身的に取り組み、フィクフ (法学)、タフシール (クルアーン注釈)、アラビア語、ハディースなどを蔑ろにすることはなく、プantalのプサントレンでも教えた。ラマダーン月には教師や伝道師を対象に一月間、ナフ (アラビア語文法) の学習を提供した。パジャガランの学校のとときに自ら編纂した独自の教材を使った。また、研修用教材を彼は集め、それを本にまとめた。その一つが『ヒダヤッ・フィ・マサイル・フィキヤー・ムタアリダッ (Hidayah Fi Masail Fighiyah Mutaa' ridhah)』でヒジュラ暦1408年に3巻本にまとめられた。その本はアズハル大学のハディースの教授アフマッド・アムル・ハシム (Ahmad Amr Hasyim) からも出版の祝辞をもらっている。また、彼はタロゴンのキヤイ・イクバルとは妻が姉妹の関係にある。

学校組織としては、幼稚園、小学校 SD、サナウイヤー (イスラーム中学校)、ムアリミン (高校段階のイスラーム教師養成校) が備えられている。ムアリミンの生徒数は300名、男子生徒の方がやや多くて60対40くらいであるという。ランチャボゴ (タロゴン) のプサントレンがトゥルパドゥ terpadu (統合) なのに対して、こちらはトゥルイラーヒ terillahi (信仰専念) であるという。ここでは、宗教省カリキュラムに加えて独自のカリキュラムを提供しており、科目数は36にも及ぶ。また、ムアリミンでは教科目として教育学も学ぶ。そして、ムアリミンの2年生から実際に中等部 (中学校部) で教える。また、KKN (社会実践活動) では3年生のラマダーン (断食月) の時と5月にそれぞれ20日間、ラマダーン月がガルート県、5月はガルート県以外で、一般の小学校・中学校で教師を務める。

ランチャバンゴのプサントレンの日課は下記の通りである。

4時00分 - 4時30分	起床
4時30分 - 5時00分	スプの集団礼拝 (マスジド)
5時00分 - 5時30分	言語プログラム / メンタリング
5時30分 - 6時15分	学校の準備、朝食
7時00分 - 14時00分	学校での学習
(12時00分 - 13時00分)	昼食・休憩)

14時00分 - 15時00分	午後の学習／課外活動
15時00分 - 15時30分	アサルの集団礼拝 (マスジド)
15時30分 - 17時00分	課外活動
17時00分 - 17時30分	マスジドに行く準備
17時30分 - 18時00分	クルアーン学習 (マスジド)
18時00分 - 18時20分	マグリブの集団礼拝(マスジド)
18時20分 - 19時00分	夕食
19時00分 - 19時30分	イシャの集団礼拝 (マスジド)
19時30分 - 21時00分	夜の学習
21時00分 - 4時00分	休憩, 就寝

(カリキュラム)

基本はクルアーンとスンナに基づいたイスラーム宗教教育である。イスラーム宗教教育は次の六つのカテゴリーに分けられている。

1) アルクルアーン・アルカリム

キロア(読誦), タフシン(暗記 pelafalan), タフイーズ(暗誦), タルジム(翻訳),

タフシール・クルアーン(コーラン注釈)は『タフシール・ジャラライン』、『タフシール・イブヌカシール』他

2) ハディース ムスタラー・ハディース, ハディースの暗記, 『サヒーフ・ブホリー』『サヒーフ・ムスリム』など

3) フィクフ・イバダー 暗誦(キロアトウル・クトゥブ式)と実践で教授される。『ブルグル・マロム』、『スブルッサラーム』

4) フィクフ・アマラー

5) フィクフ・マカリン(マズハブの比較)。キロアトウル・クトゥブ式とバースル・マサイール・フィクフ・アルムタアリダー(ウラマ間の意見の相違)で教えられる。アチェン・ザカリアの『マサーイル・フィクフ』がまず第一に使われる。

6) その他に学習内容として, ウスル・フィクフ, アフラック, タウヒード, アラビア語・文学, ナフ(統語), サラーフ(語形), マンテック(論理学), パラゴ(修辞学), タリーフ(歴史), その他

また, プサントレン教育のカリキュラムは以下の四つの知識・技能の統合をめざすものである。

1. 一般教育基準に即した一般知識
2. 外国語の学習
3. 情報・通信技術
4. 自己の技能訓練

一般教科はパンチャシラ国民教育 PPKn, インドネシア語・文学, 英語・英文学, スンダ語, 数学, 理科(物理, 化学, 生物), 歴史(国史, 一般), 心理学, 教

育学, 経営学, その他である。外国語については実用アラビア語, 実用英語もおかれる。

情報通信技術については, 情報技術入門, コンピュータ基礎, コンピュータのソフトウェア・ハードウェア紹介, ウィンドウズに基づくオペレーション・システム, マイクロソフト・ワード(アラビア文字ローマ字), エクセル, インターネット練習など。

個人の技能訓練としては, アラビア語・英語, キロアトウル・クトゥブ(キタブ・クニンの読み), 三言語によるダッワ(伝道), 宗教討論, サントリ組織, ボーイスカウト活動, スポーツ, 技能, 事業経営(kewirausahaan)などがある。

今回, 訪問したときは前期末試験の最終日が終わったところであった。科目が多く試験は2週間続くが, 前期試験終了後は生徒が組織するスポーツ大会が開催される。後期末試験終了後は, 芸能, 裁縫・調理などのコンテストが行われる。授業料は75,000ルピア, 寄宿料は400,000ルピア, 入学金は3,000,000ルピアである。

5. プサントレン・イドリシヤー Pesantren al-Iddrisiyah

タシクマラヤ県チサヨン郡(Kampong Pagendingan, Desa Jatihurip, Kecamatan Cisayong, Kabupaten Tasikmalaya)にあり, ジャワ島の南部を東西に貫くバンドン-チルチャップの街道に面している。このプサントレンについては, M Dzanurtadi, "Goes to Pesantren: Panduan Lengkap Sukses Belajar di Pesantren"の情報で知った。短い記述であるが, 「女子生徒はクルドゥン着用が義務づけられているが, チャドルの着用は義務づけられておらず, 普通のクルドゥンの生徒もいれば, チャドルの生徒もいる」⁽⁹⁾という記述に関心を惹かれた。さらに, 「チャドル着用の生徒も特に何らかの制約を課されているわけではなく, 男女は完全にわけられておらず, 一緒にバスケットに興じているし, 男子生徒とお喋りをしている者もいる。」⁽¹⁰⁾とある。チャドル着用は厳格なイスラームの象徴のように思えるが, ここでは必ずしもそうは言えない。プサントレン・イドリシヤーは1932年に創設されたタレカット(神秘主義の実践)のプサントレンとして知られる。学校組織としてマドラサ・サナウイヤー(イスラーム中学校), アリヤー(イスラーム高校), SMK(職業高校)を備える。

5-1 プサントレンの創設と命名⁽¹¹⁾

創設者はシェイフ・アブドゥール・ファタ Syekh Abdul Fattah である。彼はワリーユムルシド(導師)

を求めて1924年に妻と息子を伴って出発した。シンガポールでトランジットの際に持ち物を失い旅を続けられなくなり、シンガポールに4年間留まることになった。その間にワリーユ・ムルシドの情報を集め、サヌシヤー派タレカットの導師を求めてリビアに行く事を考えるが、同派のムルシドであるサイイド・アフマッド・アシャリフがメッカにいることを知り、彼はいったん故郷のスダに戻り、他のウラマを伴ってメッカにでかけた。そして1932年に帰国し、タレカットの伝道をはじめた。サヌシヤー派は北アフリカの植民地闘争で知られており、オランダ当局の警戒を恐れてサヌシヤーの名は使わず、その師の名にちなんでイドリシヤーと名付けた。

1947年にシェイフ・アブドゥール・ファタは死去し、息子のモハマッド・ダフラン（Mohammad Dahlan）があとを継いだ。2001年にモハマッド・ダフランが死去し、その養子のムハマッド・ファタフルラフマン（Mohammad Fathurrahman）が跡を継いで今日に至っている。インドネシア国内におけるサヌシヤー派タレカットのプサントレンはここだけである。ジャカルタに支部がある他、香港にもイフワーン（教団員）がいる。

5-2 イドリシヤーとサヌシヤー

サヌシヤー派の創始者ムハマッド・ビン・サヌシー（Mohammadd bin Ali-Sanusi）は1796年ムスタグナム（Mustagnam）に生まれた。フェズのジャミア・クラウィーン（Jamiah Qurawiyin）で1821年から1829年まで学び、その後、カイロに出てアズハル大学に学んだ。そして、イドリシヤー派の創始者アフマッド・ビン・イドリス（Ahmad bin Idris）に師事した。その師アフマッド・ビン・イドリスの死後、自らのタレカットのサヌシヤー派を作った。ちなみに、アフマッド・ビン・イドリスの3人の弟子がそれぞれのタレカットをつくっている。サヌシヤー派の他に、アッラシッド ar-Rasyid がラシディヤー派 Rasyidiyah、アルミルガニ al-Mirgani がミルガニヤー Mirganiyah 派を創始した。ムハマッド・ビン・サヌシーはメッカからメディナに移り、1843年にリビアに戻り、トリポリ近くにザーウィヤ（神秘主義の道場）を建てた。1856年に内陸部のジュグブブ Jugbub に移り、活動を続けた。マドラサを建て、8000冊の蔵書があったという。宗教生活だけでなく、共同体の生活の改善を図った。

5-3 現キヤイ／ムルシド：シェイフ・ムハマッド・ファタフルラフマン

Syekh Mohammad Fathurrahman

前記の通り、このプサントレンの現キヤイはシェイフ・ムハマッド・ファタフルラフマンである。彼は1973年にタシクマラヤに生まれた。ナスルッディン（Nasruddin）という名のカリスマ的なアジェンガン（宗教指導者）の父と母マイムナ（Maimunah）の間に生まれた。彼はシェイフ・アルアクバル・ムハマッド・ダウド・ダフランの養子に迎えられた。フォーマルな教育はサナウィヤー（イスラーム中学校）で2年間学んだ後、父を助けるために学校をやめた。そして薪を切ったり、椰子の木に上って実を採ったり、市場でトッゲ（もやし）やイカン・アシン（塩干魚）を売ったり、製粉やアヒルの飼育を手伝った。シェイフ・アルアクバル・ムハマッド・ダウド・ダフランに仕えるため学校をやめた。宗教学習については、キタブ・クニンの基本的な学を求めて、義父のポンドックだけでなく、ガルート、リンバンガン（Limbangan）、スカブミ、バンテンなどのプサントレンを巡った。他方、サナウィヤー（イスラーム中学校）の卒業証イジャザも持たなかったが、アリヤー（イスラーム高校）に入るべく努力した。やっとのことでアリヤーに入るための試験を受けることができた。アリヤーで彼は猛勉強し、卒業試験で最高点を取るまでになった。高等教育機関に進学し、学士課程はスナン・グヌンジャティ国立イスラーム宗教大学 IAIN でイスラーム教育の分野を、修士課程はクルアーン学の分野を学んだ。

5-4 教育・活動の内容

プサントレン・イドリシヤーの教育内容について、アキダー（神学）およびフィクフ（法学）／シャリヤー（イスラーム法）のコンセプトはアフルスンナ・ワルジャマア⁽¹¹⁾である。また、イフサン／タサウフ（神秘主義）のコンセプトは、Pembersihan Jiwa（精神の浄化）、Pembentukan Akhlak Karimah（アフラック・カリマの形成）、Mensucikan Hati（心を清める）である。イスラーム中学校（マドラサ・サナウィヤー・ファタヒーヤ・イドリシヤー）は、1978年に創設された。生徒は1年生32名、2年生14名、教師は8名でスタートした。1981年に宗教省「登録」terdaftar のステータスを得た。1982年（1981年－82年度）に18名の3年生全員が卒業（合格）した。イスラーム高校（Madrasah Aliyah Fatahiyyah Al-Iddrisiyah）は、翌1983年に創設され、1990年に「登録」のステータス⁽¹²⁾を、そして1999年「認定（diakui）」のステータスを得た。マドラ

サ・アリアーの目的として、1. イスラームの教えを理解し実践するようにイスラーム共同体および国家を知性的にする点で政府を助ける。2. Iptek (知識・技術) と Imtak (信仰) を発展させる。3. 生徒が自立しうる技能と創造性の種を播き育て広めて行くことをかかっている。マドラサはプサントレン・イドリシャーとの連携を基本にしている。2012年現在では、TK/TPA (幼稚園/クルアーン幼稚園), MDA (イスラーム宗教小学校), MTs (イスラーム中学校), MA (イスラーム高校), SMK (職業高校) を備える。また、これらの学校組織はファタヒヤ・イドリシャー財団 (Yayasan Fatahiyyah Iddrisiyah) によって運営されている。

宗教活動は、毎日、週間、月間の三つに分けられる。(1) 毎日の活動は、スブの礼拝のあと、さらに昼と夜のブンガジアン、スブとマグリブのあとの合同ジクル⁽¹³⁾の実践、地域間の交流ブンガジアン、(2) 週間活動は日曜日の昼と木曜日の夜の一般ブンガジアン、金曜と土曜のスブの礼拝の後のサントリのイスラーム理解を深めるためのブンガジアン、金曜日の婦人のためのブンガジアン、(3) 月間活動としては4カ月に一回の一般ブンガジアンが行われているとのことである。また、財団における社会活動としては、構成員および外の社会からのイドリシャー集会メンバーのための協同組合組織の設置、養魚・畜産・農業の訓練、ミニマーケットの運営、電話センター、遺体の処置やタハリル⁽¹⁴⁾ 他の宗教儀礼を社会と共同で実施することなどがある。

チャドルやガラビーヤ⁽¹⁵⁾ などの着用についての質問に対して、キヤイは次のように答えてくれた。アウラは男性の目から守る必要がある。女性のアウラが男性の集中を妨げる面もある。お互いに守らなければならない。女性の顔も魅力的なもので、チャドルがそのアウラを守る。チャドル着用が好ましいが、しかし、チャドル着用も非着用もその人の考え次第で自由になっている。男性は白のガラビーヤ風の服を着用している。キヤイによると、白は汚れがはっきりしているので清潔に保てる。また、外に出たときに敬虔なイスラーム教徒としての自覚をもって行動できるので好ましい。また、緑の肩掛け (スレンダン) をしている男性信徒が多いが、これは預言者ムハンマドが好んでしたこと由来する。訪問した時は、丁度金曜日であったが、チャドル姿の女性がマスジドに集まってきているのに目がいく。金曜の集団礼拝は男性の義務で、女性は義務ではないので、一般にはマスジドにいかないことが多い。しかし、ここでは女性であっても金曜礼

拝を望むものは妨げないという方針で、本人の自由にまかせている。

タレカットについて、ジクルは木曜日の夜に行われる。以前は(前記したように)毎日、マグリブとイシャのあとにもジクルを行っていた。しかし、大通りに面していて、モスクには一般の人も礼拝に訪れるので、そこで大声でのジクルは好ましくないと考え、ジクルをブンガジアン・クルアーン (クルアーン学習) に変えた。シェイフ・ムハマッド・ファタフルラフマンは、タレカットは方法であって目的ではないという。イスラームについても、NU, ムハマディヤ、プルシスなど異なる組織があるが、目的はひとつで、それはイスラームである。それぞれの組織が目的化するとおかしくなるという。ダツワ (伝道) については、ジェマ・タブリーグのようなシステムはもたない。ダツワはオーラルなものに限らない。メディアやその他、様々な活動を通して可能性を持つ。

6. プサントレン・マノンジャヤ Pondok Pesantren Miftaful Huda, Manonjaya

6-1 創設者ウワ・アジェンガン Uwa Ajengan⁽¹⁷⁾

創設者のウワ・アジェンガン (Uwa Ajengan) が、息子 Abdul Fataha を伴って最初にマノンジャヤにきたのは1962年で、彼が40歳の時であった。彼が最初に設立したプサントレン・ワナスカ Wanasuka の卒業生3名がマノンジャヤにいたからであった。マノンジャヤの西にアブドゥル・マナン Abdul Manan、マノンジャヤのチカレオ Cikareo にアブドゥルロシッド Abdurrosyid が、そして彼自身の異母弟スカエジ Sukaaji の養子アバッド Abad の3名がいた。彼らのところにウワ・アジェンガンは3カ月ほど滞在した。マノンジャヤの立地が、ウワ・アジェンガンの生地チアミス Ciamis のチググル Cigugur とバンドンの町を結ぶ途中にあったことが大きい。その後、ウワ・アジェンガンはアバッドの家の前のアジェンガン・ウホ Ajengan Uho の家に移り、6カ月ほど滞在した。その間、彼は医療のことや家族の問題などで周辺の人達を助け、また集団礼拝の会衆に祈り (ドゥア) を頼まれたり、タシクマラヤの町のナガラワンギにあるハジ・ザイナル・ムストファ通りのジュナルディ (Junardi) のマドラサで定期的なブンガジアンを教えた。そのブンガジアンには、プルシス、ナフダトゥールウラマ、ムハマディヤといった組織に関係なく多くの人達が集まった。そこではアスマフル・フスナ⁽¹⁸⁾ とタウヒー

ド（神学）を教えた。それ以前は、組織毎に分かれてブンガジアンが行われ、ナフダトゥールウラマは木曜日の夜に、ムハマディヤは金曜日の夜に開かれていたが、ウワ・アジェンガンが第一の目標にしたのはイスラーム共同体の統一であった。最初は実業家オネック（Onek）から、その息子の結婚式の説教に招かれ、周辺の人達はその説教に惹かれたことで、彼のブンガジアンが定期的にその地で開かれるようになった。マノンジャヤからは遠かったが、ナフダトゥール・ウラマとムハマディヤの人達が交替で迎えにきた。ウワはまたチヘラン Ciharang のウディン Udin のプサントレンでも毎月定期的に教えた。ウディンはシンガバルナのスカマナのプサントレンで共に学んだ仲間であった。ウディンの尽力で、一軒の家がチヘランの人々の協力でチシト・カレール（Cisitu Kaler）に移され、そこでウワは最初に教え始めた。チシトに移ってまもなく、彼の師ラデン・ディディ、アブドゥル・マジッド Raden Didi Abdul Majid が訪ねてきた。師は亡くなるまで3度訪ねてきたが、ウワに学問を役立てようとするなら、ここに留まるように助言する。まもなくウワ・アジェンガンには多くの援助の申し出が来たが、彼は謙虚で、先の師の助言もあって場所を移すことになる支援は固辞し続けた。最終的に一人の寡婦からワカフ（宗教寄進財産）の申し出があり、それをうけて現在の地にプサントレンを設立することになった。

6-2 カリキュラム

マノンジャヤの教育システムは、イブティダイ（初等）、サナウイ（中等）、マアハド・アリー（高等）の3段階に分けられている。さらに各段階が三つの段階（クラス）に分けられ、イブティダイ I～III、サナウイ I～III、マアハド・アリー I～III と呼ばれる。伝統的なキタブ学習のスタイルで、下記の通り、各段階で学ぶキタブが定められている。学習の時間も学校形式ではなく、各礼拝の後（バアダ・ソラット）に決められている。（以下、キタブ名の『』は省略）

（イブティダイ I）

タウヒード入門、フィクフ入門、シャハダティン、タリーフ入門、ウイリダンとイスティゴサ、ソラット・ファルドゥ、イクロ／クルアーン、タジュウイード、アラビア語巻1。

（イブティダイ II）

ジュルミヤ、サフィナートウンナジャ、ティジャン・アッダリ、フラソー巻1、アフラク・パニン巻1、タスリファン、タジュウイード、アラビア語巻2、ジュ

ルミヤ暗誦、ジュズアンマ暗誦

（イブティダイ III）

ソローフ・アルカイラニ、リヤドゥル・バディア、マジュムアトウル・アキダ1,2、アフラク・パニン巻2,3、フラソー巻2,3、キヤサン、ハディース・アルバイン、アラビア語巻3、ジュズアンマ暗誦

（サナウイ I）

アルフィヤ・イブヌマリク、バイジュリ巻1,2、キファヤトウル・アワム、タフシール・ジャラライン、リヤドゥスソーリヒン、キファヤトウル・アトキヤ、イアダー・ソローフ・アルカイラニ、マタン・アルフィヤ暗誦

（サナウイ II）

ジャウハール・タウヒード、ファトフル・ムイン巻1,2、ロフビーヤ／ファロイド、マンテック、イスティアラ、アラジュル・アムロッド、ソヒーフ・ブホリ巻1,2、ソヒーフ・ムスリム巻1、イアダー・アルフィヤ・イブヌマリク、ロヒビヤ・マンテック・ティアラの暗誦

（サナウイ III）

ジャウハール・マクヌン、ホリダトゥール・バヒヤ、ファトフル・ムイン巻3,4、ワロコット、ラトイフル・イサロ、ソヒーフ・ブホリ巻3,4、ソヒーフ・ムスリム巻2、キファヤトウル・アキヤ、シロジュトーリヒン、イアダー・マンテック、ジャウハール・マクヌン暗誦

（マアハド・アリー I）

ゴヤトウル・ウスル、ウクドゥル・ジュマン、ファトフル・ワハブ、アシバ・ワンナゾイル、ビダヤトウル・ムジュタヒド、イヒヤ・ウルムッディン

（マアハド・アリー II）

ジャムル・ジャワミ巻1、ウクドゥル・ジュマン、ファトフル・ワハブ、アシバ・ワンナゾイル、ビダヤトウル・ムジュタヒド、イヒヤ・ウルムッディン

（マアハド・アリー III）

ジャムル・ジャワミ巻2、ファトフル・ワハブ、アシバ・ワンナゾイル、ビダヤトウル・ムジュタヒド、イヒヤ・ウルムッディン

アラビア語文法、法学、神学、タフシール（クルアーン注釈）、ハディース、論理学、修辞学、神秘主義などのイスラーム諸学を体系的に学ぶシステムになっている。キタブ名をみるだけで、東部ジャワの rilboyo や中部ジャワの tegalrejo などと肩を並べるような高度なキタブ学習が提供されていることがわかる。

6-3 プサントレンの生活と費用

サントリは地域毎の組織に所属する。17の地域組織があり、それぞれ男女別に分かれる。

プサントレンの入学条件として下記の点（手順）が示されている。

1. 保護者とともに事務局で登録すること。2. 登録用紙に記入し、資格のコピー2枚を提出。3. 面接。4. 保護者がプサントレンの指導者に委ねる。5. プサントレンのブングルス（管理委員）の前での生徒（サントリ）の誓いをたてる。プサントレンでの初期費用は、登録料 80,000ルピア、月謝 160,000ルピア、報告簿 10,000ルピア、サントリ証 10,000ルピア、計 260,000ルピアを納めなければならない。

プサントレン内には、書籍・日用品を扱う売店が運営されている。ここでも男女が一緒にならないように、それぞれの男女別の営業時間が定められている。売店には各段階のキタブのセットが用意されている。各段階のキタブの総額と、括弧内に1万ルピア以上のキタブ名と価格を示すと、下記の通りになる。（ルピア）

イブティダイ I 49,300

イブティダイ II 54,200

イブティダイ III 82,500

サナウイ I 170,800（アルフィヤー17,500、バジュリ52,000、リヤドゥスソーリヒン30,000、タフシール・ジャラライン32,000）

サナウイ II 318,600（ジャウハール・タウヒード15,500、ブホリー95,000、ソヒーフ・ムスリム61,000、ファトフルムイン95,000、アラジュラムルッド20,000）

サナウイ III 394,300（ジャウハール・マクヌン17,500、ナファハト18,500、シロジュトーリピン55,000、ブホリー95,000、ソヒーフ・ムスリム61,000、ファトフルムイン95,000、キファヤトゥル・アキヤ28,500）

マアハド・アリー I 143,800（ゴヤトゥル・ウスル15,500、ウクドゥル・ジュマン17,500、アシバ・ワンナゾイル28,500、ファトフル・ワハブ35,500、ビダヤトゥル・ムジュタヒド40,000）

マアハド・アリー II 190,300（Iと同じテキストが多い、ジャムル・ジャワミ62,000）

マアハド・アリー III 172,800（同）

また、マアハドアリの三つの段階共通のキタブ、イヒヤ・ウルムッディンは110,000ルピアである。

おわりに

プサントレン・スカヒドゥンとプサントレン・スカマナーは伝統派ナフダトゥール・ウラマ系に属するプサントレンで、ともにザイナル・ムストファ財団のもとに運営されている。スカマナーが周辺に開かれた学校システム（スコラとマドラサ）を整備し大規模化してきたのに対して、スカヒドゥンは凝集度の高い敷地・施設を形成・維持し、イスラームの伝統的な学習の整備・強化に力をいれてきた。同じ財団のもとにある二つのプサントレンだが、寄宿生活の様態や学校での学習の雰囲気は大きく異なり、文化が異なるといってもよい。生徒に刻み込まれる学習経験の質は二つのプサントレンの間で大きく異なる。ナフダトゥール・ウラマ系はプサントレンの大半を占め、それぞれのプサントレンが特色・独自性をもつことで知られるが、同じ財団の運営にあってもこれだけの差異を包摂する懐の深さが、多様なニーズに応え、プサントレン全体としての活力を維持していることが実感される。

タロゴンとランチャバンゴの二つのプサントレンは、いずれも改革派のブルシスに属している。それぞれキヤイ（プサントレン主宰者）の妻が実の姉妹で、元は一つのプサントレンが袂をわかったものである。タロゴンは町の中心部近くに位置し、一般の大学で学んだ現キヤイがリベラルな改革を進め、国際機関や民間組織とも密接な連携のもとに現代社会の諸問題に 대응しようとしてきた。タロゴンはトゥルパドゥ Terpadu（統合）を看板に、積極的に現代のニーズに対応しようとしている。他方、ランチャバンゴは中心からやや離れた農村部に位置し、正規の学校としては小学校を卒業しただけのキヤイが伝統的なキタブ（アラビア語で書かれたイスラームの教義書・注釈書）を中心に据え信仰に基礎をおいた護教的な教育を保持する。キヤイはイスラームの啓蒙書の執筆に精出し、演説をはじめグワツ活動も積極的に行う。出版を通じた理念・思想の普及という形態は、ブルシス設立当初からの伝統で、異端に関する啓蒙書をキヤイ（アチェン・ザカリア）が執筆するなど論争的な性格も維持してきた。ただ、組織的な拡大をめざすのではなく、ブルシスの当初からの性格とされるそれぞれのローカルなイニシヤティブに任せるという姿勢もここで活かされている。同じガルトにあつて、さらに兄弟関係にあるようなプサントレンがこのような対照的な性格を持つ点も興味深い。近代派のムハマディヤーや、近年発展を遂げている LDII が組織的で画一的であるのに対して、ブルシスは（守る部分は違っても）ナフダトゥール・ウ

ラマのような融通性をもっている点が興味深い。

ファトヒーヤ・イドリシヤーは、神秘主義教団サヌシヤー派のプサントレンとして知られる。創設時に植民地当局から警戒されるのを危惧して、サヌシヤーではなく（サヌシヤーの師イドリスの名に因んで）イドリシヤーと命名した。神秘主義の行（タレカット）を通じた共同体の精神的な安寧にとどまらず、イスラーム共同体の生活向上にも意を払ってきた。今日のファトヒーヤ・イドリシヤーも、経済活動（畜産、レストラン・売店経営他）に力を入れ、周辺に住む住民への小規模融資にも取り組んできた。ニカーブ着用の女性信徒、また男性信徒の緑の肩掛けなどに目がいき、原理主義・過激派のような印象を抱きがちであるが、実質はそうではない。ムハンマドとその時代の慣行を尊重するものであり、それを好ましいとはするが、他方で強制はせずに信者の自由にまかせている。さらに、実践的な部分では大胆な解釈もみられ、正統派からは異端のそしりを招きかねない部分もある。プサントレン・マノンジャヤは、カリスマ的な創設者の記憶が今なお鮮明で、キタブ学習に専念するシステムを整えている。上級生から選ばれたブングルス（監督生）による自主管理が徹底され、学校化の影響を最小限に止めている。学習（ブンガジアン）は学校の時間割のような形態ではなく、礼拝の後に学習を置くスタイルが保たれ、男女の厳格な隔離（生協購買部の時間設定）などの特色をもつ。卒業生の多くがプサントレンを設立するということに示されるように指導者層の伝統的な再生産を担う。

今回は、西ジャワの一部地域（ガルート、タシクマラヤ周辺）に限った調査であるが、プサントレンの実態として良く指摘される多様性はここでもあらためて確認することができる。同一織内（ブルシス）や同一財団内（ムストファ財団）でも多様なあり方が護持されている。それが全体としてプサントレンに活力をもたらし、民衆を惹きつけるイスラーム宗教指導者の活動につながっている。

*本調査にあたって、Deden Faoz氏（本研究科博士前期課程修了、2011年）からタシクマラヤ周辺のプサントレンに関する情報提供および現地案内に関してご協力いただいた。また、LIPI（インドネシア学術院）研究員のHerman Hidayat氏には西ジャワのイスラーム指導者とその活動についての情報を提供いただいた。

〔注〕

(1) Pesantren KHZ Musthafa ウェブサイト (<http://www.pstkhzmusthafa.or.id/pesantren-dan-perjuangan-kh-zainal-musthafa-sukamanah>) (2013年7月2日アクセス)。

(2) 同上。

(3) ブルシスの概要に関しては、Deliar Noer, *The Modernist Muslim Movement in Indonesia 1900–1942*, Kuala Lumpur: Oxford University Press (second impression), 1978, pp.83–92を参考にした。

(4) ガルートにおけるブルシスの歴史（概略）については、<http://www.persistiarogong.com/profil/sejarah>を参考にした。

(5) Lembaga Penelitian, Pendidikan dan Penerangan Ekonomi dan Sosial（経済と社会に関する教育・研究・広報研究所）の略称。1970年代に創設された民間組織で、プサントレンに関係する多くの著作を出版している。

(6) Ajengan。西ジャワ（スダ語圏）における宗教教師・導師に対する尊称。ジャワのキヤイに相当する。

(7) アルファティハはクルアーンの第一章「開端（開扉）の章」。短い7節からなる章で、これを先導するイマムに続いて何度も唱えて、バラカ（神の恩寵）に与ろうとする伝統派の慣行を指す。

(8) 特定の礼拝の最後のラカートにおけるイクティダル（ひれ伏す—スジュド—前の立ち姿勢）のあとに読まれる特別な祈り（ドゥア）。ラマダン（断食）月の16日夜から最後の夜までに行われるウィティル（奇数回）の礼拝の時などに読まれる。

(9) イスラーム教徒女性の服装で、西洋では一般にヴェールと総称される。女性のアウラを隠す服装。東南アジアではジルバブもしくはクルドゥンがその総称として使われる。中近東ではヒジャーブ、チャドル、ニカーブの用語も使われる。ヒジャーブは、頭髪をしっかりと覆うヴェールの一種。チャドルはペルシャ語のテント、大型風呂敷に由来し、女性が身体全体を覆う布。また、ニカーブは目以外の体全体を覆うものを指す。

(10) M. Dzanurtadi, *Goes to Pesantren: Panduan Lengkap Sukses Belajar di Pesantren*, pp.184–185

(11) プサントレン・イドリシヤーについては、先述の通り M Dzanurtadi, "Goes to Pesantren: Panduan Lengkap Sukses Belajar di Pesantren" に短い記述が見られるが、ウェブ <http://www.al-idrisiyah.com/> の情報で補った。

(12) 預言者ムハンマドとその教友の教えに従う人々の意。スンナ派の総称。略してアスワジャ（Aswaja）ともいう。

(13) 私立学校の教育の質を保障するための制度で、国立学校を基準にして「同等」「認定」「登録」の三つのステータスが与えられた。現在はアクレディテーション（基準認定）制度に変わり、「ステータス」の制度は使われていない。

(14) 称名。「アッラーは偉大なり」「神に栄光あれ」などの章句を繰り返し唱えること。神秘主義の行、すなわち神秘的合一体験に至る方法として実践される。

(15) クルアーンの章節を用いて、アッラーを讃える読誦

(16) ガラビーヤはエジプトの男性が身につけるゆったりとした長衣。「ジルバブ」のエジプト訛り・方言（アンミーヤ）。

(17) ウワ・アジェンガンについては、K.H. Abdul Fattah, *Aweal Mula Uwa Ajengan Datang ke Manonjaya*, CV.Wahana Iptek Bandung, 2010, pp.1-10を参照した。

(18) 99のアッラーの名を読誦すること。

〔参考文献〕

- 阿久津正幸 2003 「イブン・ハッリカーンのマドラサ入学、バハー・アッディーン・ブン・シャッターの講義—イスラム世界の高等教育施設における学術・教育活動の素描」『大学史研究』(19) 2003, 1-16頁
- Hefner, Robert W.& Muhammad Qasim Zaman (eds.) 2007 *Schooling Islam: The Culture and Politics of Modern Muslim Education* (Princeton Studies in Muslim Politics), Princeton University Press.
- Kementerian Agama, 2012 *Statistik Pendidikan Islam 2010/2011*.
- Lukens-Bull, Ronald, 2005 *A Peaceful Jihad: Negotiating Identity and Modernity in Muslim Java* (Contemporary Anthropology of Religion), Palgrave Macmillan.
- 西野節男 1997 「マレーシアにおける教育改革とイスラーム化政策—価値多元化への対応をめぐって—」『教育学研究』第64巻第3号（1997年9月）、36-45頁
- 西野節男 2001 「イスラーム教育」村田翼夫編著『東南アジア諸国の国民統合と教育—多民族社会における葛藤—』東信堂、195-207頁
- 西野節男 2010 『東南アジア・マレー世界のイスラーム教育—マレーシアとインドネシアの比較—』東洋大学アジア文化研究所・アジア研究センター
- 西野節男・服部美奈 2007 『変貌するインドネシア・イスラーム教育』東洋大学アジア文化研究所・アジア研究センター
- 杉本均 2002 マレーシア：グローバル化する複合社会の公立学校（特集 公立学校改革の新動向—国際比較）『比較教育学研究』(28), 53-63頁
- 杉本均 2005 「世界の動き イスラム的理念や世界観を反映—マレーシア公教育における価値と宗教の教育」『内外教育』(5618), 5-7頁

Trends of Islamic Religious Leader Training in Contemporary Indonesia: A Case Study of Islamic Boarding Schools in West Java

Mina HATTORI[†], Setsuo NISHINO^{**}

The purpose of this paper is to describe how the Islamic religious leaders (*ulama* in Arabic) are trained in contemporary Indonesia and to indicate the trends and problems in the training process. In this paper, the several Islamic boarding schools (*pesantren* in Indonesian) in West Java are taken up as an example.

In Indonesia, National Institutes of Islamic Studies/ Islamic Universities established in 1960s and 1970s have been the important role to produce the graduates who had the liberal/moderate way of thinking while still maintained the Islamic tradition. There are not few alumni who have engaged in education at Islamic boarding school after they graduated from those Islamic Institutes/universities. On the other hand, the traditional Islamic boarding schools run by private sectors have also continued to produce the Islamic religious leaders who charm the public with the charismatic humanity and reputation. From this point, we recognize the important role of the private Islamic boarding school for Islamic religious leader training.

In this paper, we discuss about the six Islamic boarding schools in Garut and Tasikmalaya, located in the east area of Bandung, West Java. We conducted the fieldwork in October 2012.

In Garut, we selected two Islamic boarding schools in Tarogong and Rancabango, managed by *Persis (Persatuan Islam)*. *Persis* is well known as Islamic reformist organization and influential in West Java. In spite of having been established under the same organization, these two Islamic boarding schools are contrastive. The Islamic religious leader (*ulama*) in Tarogong promotes the liberal reform in Islamic education and has the close cooperation with various international organizations and private sector organizations. On the other hand, the Islamic religious leader (*ulama*) in Rancabango devotes the energies to writing of the Islamic enlightenment books and also performs sermon activities. The Islamic education in Rancabango are maintained the learning tradition of Islamic boarding school.

In Tasikmalaya, we also selected two Islamic boarding schools in Sukamana and Sukahideng, located in near central of Tasikmalaya. Sukamana is known as the Islamic boarding school established by Zainal Mustafa. Zainal Mustafa is famous Islamic religious leader (*ulama*) who caused the rebellion against the Japanese military government. Sukamana is the Islamic boarding school established by Zainal Muhsin, a cousin Zainal. These two Islamic boarding schools are managed under the same foundation, namely Zainal Mustafa Foundation. They have also maintained autonomy and own characteristics, while they cooperate to develop these Islamic boarding schools.

Also in Tasikmalaya, we selected two more Islamic boarding schools. One is Fattahiyah Iddrisiyah located in the peripheral part of a town and another one is Miftahul Huda Manonjaya located far from the town. Fattahiyah Iddrisiyah is known as the Islamic boarding school which is belonging to the Islamic mysticism religious group (*Tarekat* in Indonesia) Sanusiyyah. Although *niqab* wear for female is not necessarily forced, there are not few female wear *niqab*. The eye of suspicion tends

to be turned to this Islamic boarding school due to its minority mysticism belief and female *niqab*. On the other hand, Miftahul Huda Manonjaya is known as the Islamic educational system which is focused on Kitab learning (learning traditional religious textbook written by Arabic language). The traditional reproduction of the Islamic religious leaders is maintained by this Islamic boarding school.

Although we conducted our research just only in the limited area in West Java, we find the diversity of the Islamic boarding schools. This diversity has led to the vitality of Islamic boarding schools.

* Professor, Graduate School of Education and Human Development, Nagoya University

** Professor, Graduate School of Education and Human Development, Nagoya University